



生きものが他の生きものや環境などに体を似せることを擬態といいます。隠れたり、だましたりできて生存に有利なのでしょう。それにしてもどのようにしてそっくりなものが生まれるのか。進化の興味深いところです。

【ミミックオクトパス】

Thaumoctopus mimicus



1998年、インドネシアで自らのかたちを変幻自在に変えながら、さまざまな生きものに擬態するタコが発見されました。それも相手によって姿を変えるのです。腕をのばしたウミヘビのかたちは、ウミヘビを天敵とするスズメダイにむけられます。ミノカサゴに擬態して相手を脅かし、シタビラメになって素早く泳ぎ去ります。これらの周辺に住む毒をもつ生きものをまねるのが得意なのです。モデルがわからないものも含めて40種以上のパターンを使うといわれます。親指ほどの胴と頭につまった生きる知恵に驚き、擬態のしくみが知りたくくなります。

BRH

* * * *

ウミヘビ

見張り中?

ミノカサゴ

クラゲ

シタビラメ

© Images & Stories / Alamy

© gotmuck.com

© gotmuck.com



11 12 13 は
展示シート用の
パーツです